

学校番号				
2	5	0	1	8

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 3 月 24 日

札幌市立 西岡南小学校

1 今年度の重点目標

「みんなが幸せな学校」「『にしおかみなみの子』の育成」

2 本年度の経営方針

・ここにこ あいさつする子【かしこい子】 ・しっかり べんきょうする子【かंगाえる子】
 ・おもいやり あふれる子【やさしい子】 ・からだを きたえる子【たくましい子】を目指す子ども像として共有し、
 【視点1】みずから【主体】、【視点2】なかよく、みんなのために【協働】を視点として、全ての教育活動の機会 で育成を図り、指導と評価を行う。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価(A/B/C)	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像 アンケート項目①～⑩	「にしおかみなみの子」	ここにこあいさつする子 しっかりべんきょうする子 おもいやりあふれる子 からだをきたえる子	A	目指す子ども像を共有し、各部、学年、学級で取組を進めてきた。上級生を中心として廊下歩行や奉仕活動の取組を行い、よりよい学校づくりにつながっていた。次年度も中間、年度末に児童・保護者・教職員アンケートを実施・設定して実態把握に努め、スピード感をもって教育活動の評価、改善を図っていく。	A	A
学校関係者評価委員会 による意見		アンケート結果の数値を分析的に見ることで、学校課題を詳しく捉えていくことができる。各学級での効果的な取組を共有したり、困りを抱えている子に寄り添ったりしながらよりよい学校づくりを継続してほしい。				

包括的 重点 ■■■ Iーさ C小っ T中ぼ う活 貢つ 用し 子た ーた 教 育 び 育 ー の 推 進 ス メ 情 報 種 活 間 用 育 連 携)	調 和 の ・ 徳 れ ・ 体 育 の ち	学ぶ力 ②～⑥	課題探求的な学習	「つながる授業」「分かる・できる・楽しい授業」を目指し、主体的に学ぶ力の育成	B	子どもの「～したい」を引き出して意欲的に学べるよう、学ぶ力の育成部を中心に学年・ブロックの体制を軸に授業力向上に取り組む。課題、提示資料、場の設定等を工夫・検討し、子どもたちの関わりを通して考えが深まったり、広がったりする学びを構築していく。また、足場の支援（指導の個別化）を行っていく。	A	A
		豊かな心 ⑦～⑨	人間を尊重する心の育成	道徳の授業や児童の細やかな見取りを通して、お互いを尊重し、安心して生活するよさやいじめ防止について考える機会の設定	A	道徳教育や日常の指導を通して、子ども同士の温かな関わりを増やし、自他に対しての思いやりの心を育んでいく。また、年3回の「あったか見守り週間」に加え、毎月いじめ対策会議を設定し、いじめに対し迅速かつ組織的に対応していく。	A	A
		健やかな体 ⑩	休み時間に運動に親しむ機会の創出	「活動推進部」の取組を中心とした、なわとび運動の全校的な広がり	A	8の字チャレンジ大会やなかよしスポーツ集会の取組などを通して、仲間と共に目標に向かって取り組む姿が見られた。次年度は跳び箱・マット週間を分けて2週ずつにしたり、3学期になわとび強化月間を設定したりと運動機会の確保や意欲の持続を目指し、関わっていく。	A	A
	学校関係者評価委員会 による意見		子どもの実態に合わせて、それぞれの個々に応じたアプローチを大切にしてほしい。様々な取組を通して、子どもに自信を付けさせていってほしい。					
	札幌らしい 特色ある学校 教育	学びの基盤となる【読書】	朝読書や授業の単元の関連本の活用	A	週に2回の全校朝読書で、子どもたちが本に親しむ機会を継続的に確保する。子どもたちが新しい本の世界に出会えるよう、年に数回、教職員による読み聞かせを実施する。教科学習と関連付けた読書活動も取り入れ、読書の広がりさらに深まるよう工夫していく。	A	A	
	子どもの 発達への支援	特別支援教育	一人一人の教育的ニーズに応じた支援や教職員の児童理解の深まり	A	保護者、SCや関係機関との連携や担任と保護者との共通理解が深まるようコーディネーターを中心に支援を行っていく。年に3回、学びの支援全体会を行い、研修を通じて児童対応についての理解を深めていく。	A	A	
	信頼される 学校の創造	家庭や地域とともに進める学校づくり	社会の変化に応じた教育活動について迅速、的確な情報発信	A	各行事ははじめ、毎日のHP更新、すぐへの活用、場所と時期を工夫して実施した参観週間、通知表とタイアップして実施した個人懇談等、学校の様子を家庭・地域に伝え、信頼関係の構築につなげる。2学期後半に実施する保護者向けアンケートの結果を基に、保護者の評価を学校運営に生かしていく。	A	A	
教科等の枠組 を越えた教育	情報教育	タブレットの効果的な活用 教職員のスキルアップ	B	研修を担当する職員を中心に、一人一台端末の効果的な活用方法や実践例を共有し、教職員のスキルアップを図っていく。家庭と連携しながら、年度当初に使用する際のきまりを全学級で確認したり、出前授業やネットモラル週間を設定したりして、情報モラル教育に取り組んでいく。	A	A		
学校関係者評価委員会 による意見		朝読書については札幌市らしい取組であり、読書週間の無い子が増えてきているからこそ学校で行う意義があると感じた。学級文庫の活用については本が増えただけにならないよう、効果的に利用して行ってほしい。ICT活用を得意とする若手職員が中心となって研修を行い、スキルアップを図ることは価値のある取り組みである。						

学校独自に 設定する分野	業務改善・働き方改革		A	会議の精選や紙面開催、通知表の内容変更、行事や個人懇談の見直しなど、業務の最適化を図る。生活適応期間や教職員研修日の設定等、余剰時間の効果的な活用を行い、児童や教職員の負担感を軽減していく。職員の声を基に業務の見直しを進めるなど、今後も更なる改善と意識改革を進めていく。	A	A
学校関係者評価委員会 による意見		ペーパーレス化を進めるなどして業務改善を進めていってほしい。				